

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

肥前浜宿空き町家を活かした移住定住促進プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

鹿島市

### 3 地域再生計画の区域

鹿島市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本市は佐賀県の南西部に位置し、南には多良岳、北には有明海が配しており、山から海に流れ込む良質で豊富な水を生かして、古くから米作りや酒造りが盛んな地域である。特に、旧長崎街道の脇街道である多良海道の宿場町として栄えた肥前浜宿では、江戸時代から続く酒蔵など地域固有の資源が残っており、その歴史的まちなみは国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。また、毎年3月には、肥前浜宿の酒蔵通りを中心に、市内の酒蔵が一斉に蔵開きを行う「鹿島酒蔵ツーリズム」が開催されており、多くの観光客が訪れている。最近では、このまちなみの魅力に惹かれ、県外からの移住希望者が増加している。

しかし、本市においては、平成17年の国勢調査では32,117人であった人口が平成27年には29,684人と、この10年間で2,433人、7.6%の減少となっており、こうした人口減少や少子高齢化の進行に伴い、空き家は増加傾向である。

肥前浜宿の重伝建地区でも同じ状況にあるが、大規模な修復が必要な場合や、住居としての環境が整備されていないなど、すぐに住める物件は少ない。今回整備する施設は伝統的な茅葺の町家であり、文化庁の保存修理事業の補助金を受け所有者が外観のみは修理を行ったものの、内部構造にはほとんど手がつけられておらず、その後の利活用が進まないまま空き家の状態が続いている。近隣の物件を探すにも時間を要するため、遠方からの移住希望者にとっては不便な状況にある。

また、知人もいない田舎で暮らすにあたり、地域との関りや住民とのコミュニケーションなど様々な不安があると思われる。

このように、地域において人口減少や少子高齢化、空き家の増加が課題となっているなか、歴史的まちなみに関心を持ち、移住を希望される方が増えてきているものの、安定した移住・定住につながらないのが現状である。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

国の伝統的建造物群保存地区に指定されている肥前浜宿の歴史的まちなみや伝統的な建物を将来にわたって維持し、地域を活性化していくために、人口減少に対する移住促進の施策として、お試し移住の施設を整備する。当地区の代表的な建造物でありながら空き家となっている茅葺の町家を活用し、歴史的なまちなみや古民家等に関心の高いコアな移住者希望者を誘致可能な施設とすることで、周辺と同様の取組みとの差別化を図り、移住定住の促進や空き家の解消、歴史的まちなみの価値の発信、もって地域の活性化につなげる。

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
移住体験施設利用による浜町地区への移住者数	0人	0人	1人	1人
移住体験施設利用による市内(浜町地区除く)への移住者数	0人	0人	1人	1人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
移住体験施設利用による浜町地区への移住者数	1人	1人	4人
移住体験施設利用による市内(浜町地区除く)への移住者数	1人	1人	4人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

人口減少や少子高齢化に伴い、空き家が増加している肥前浜宿の伝統的建造物群保存地区において、移住定住の施策として、まちなみの魅力にひかれ質の高い暮らしを求める移住者希望者や、地域のコミュニティや文化に理解の高いコアな層をターゲットとするため、単なる移住体験施設ではなく、地区の伝統的な建造物である茅葺の町家での生活空間を整備し、地元 NPO 法人に運営を委託することで、地域に根ざしたお試し移住を実施する。また、茅葺町屋を利用することで、周辺市町の同様の取組みとの差別化を図る。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

#### ① 事業主体

鹿島市

#### ② 事業の名称：肥前浜宿で暮らす体験！茅葺の町家でお試し移住

#### ③ 事業の内容

移住定住の施策として、肥前浜宿の伝統的建造物群保存地区において、まちなみの魅力にひかれ質の高い暮らしを求める移住者希望者や、地域のコミュニティや文化に理解の高いコアな層をターゲットとするため、単なる移住体験施設ではなく、地区の伝統的な建造物である茅葺町家での生活空間を整備する。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

本事業において整備する移住体験施設の運営については、当面の間、地元 NPO 法人または設立予定のまちづくり団体に指定管理者制度により委託することとしており、利用料は施設の維持管理に必要な費用を賄えるよう設定している。

また、平成 29 年度には肥前浜宿の情報発信を強化するために地域おこし協力隊の雇用を予定しており、施設利用の PR はもとより、肥前浜宿で開催されるイベント等でのさらなる魅力の発信を通して、施設の利用推進ができる。

##### 【官民協働】

重要伝統的建造物群保存地区である肥前浜宿には、歴史的建造物と

して保存修復を行ったものの、利活用されていない民間物件が点在している。この物件を活用し整備した移住体験施設の運営を民間に委託することで、地域資源の活用、地域の活力の増大と地元の収益の増加が見込まれる。

### 【政策間連携】

重要伝統的建造物群保存地区にある歴史的建物を利活用することで、改めてその歴史的価値を再確認することができ、またその価値を発信することで観光振興にもつながる。さらに、移住体験施設として整備することで、人口減少に対する移住促進の施策として位置づけられる。

## ⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
移住体験施設利用による浜町地区への移住者数	0人	0人	1人	1人
移住体験施設利用による市内(浜町地区除く)への移住者数	0人	0人	1人	1人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
移住体験施設利用による浜町地区への移住者数	1人	1人	4人
移住体験施設利用による市内(浜町地区除く)への移住者数	1人	1人	4人

## ⑥ 評価の方法、時期及び体制

### 【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を企画財政課が取りまとめ、

外部有識者等で構成する「鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」に報告し検証を行う。

#### 【外部組織の参画者】

外部有識者等で構成する「鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」や議会から意見を得ながら検証結果報告をまとめる。

#### ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 11,492千円

#### ⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) お試し移住施設管理運営事業

事業概要：予約受付や施設利用者への対応、施設の維持管理、施設利用のPRなど、お試し移住施設の管理運営に関する業務を行うもの。

実施主体：佐賀県鹿島市

事業期間：平成30年度～平成33年度

##### (2) お試し移住施設地域交流事業

事業概要：施設の利用予約のっていない期間を利用した地元や移住希望者への見学会の開催や、施設利用者の地域コミュニティへの参加を促す取組みを行うもの。

実施主体：佐賀県鹿島市

事業期間：平成30年度～平成33年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を企画財政課が取りまとめ、外部有識者等で構成する「鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」に報告し検証を行う。

#### 【外部組織の参画者】

外部有識者等で構成する「鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」や議会から意見を得ながら検証結果報告をまとめる。

### 7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
移住体験施設利用による浜町地区への移住者数	0人	0人	1人	1人
移住体験施設利用による市内(浜町地区除く)への移住者数	0人	0人	1人	1人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
移住体験施設利用による浜町地区への移住者数	1人	1人	4人
移住体験施設利用による市内(浜町地区除く)への移住者数	1人	1人	4人

### 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、企画財政課が9月末時点にホームページ上で公表を行う。